

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500115		
法人名	株式会社愛ホームサービス		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区下沢通8丁目2-20		
自己評価作成日	令和06年01月16日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は兵庫区という街中にあり緑が多いとか自然に囲まれているとは言えませんが静かで落ち着いた環境の中にあります。職員の年齢層が比較的に高く施設内においても落ち着いた穏やかな時間を提供できていると思います。家族様との連携においては非常に密にとれており又、常勤や非常勤に限らず入居者様の状況を丁寧に説明することが出来ております。遠方にお住いの家族様においてもズームでの会話 ラインでの画像の送信、電話や手紙など多種に渡っての近況報告をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosyo_index

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、南北を幹線道路に挟まれた閑静な住宅地のなか、昔ながらの銭湯もあり風情のある環境に建っている。2階3階がグループホームであるが、3階部分は後から増築されているため、各階とも全く異なる設えとなっている。居住空間はゆったりと設計されており、居住性の良さが感じられる。昨年11月に管理者が交代したところであり、引継ぎ事項などを含め、内部整備が十分とはいえない現状ではあるが、法人本部のバックアップのもと順次、整備されつつある。管理者には地域交流の充実などの諸問題解決につながる計画もあり、段階を踏みつつ意欲的に取り組んでいる。引き続き、地域密着型事業所としての役割を理解したうえで、近隣住民にも開かれた事業所運営に取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「尊厳の重視」「入居者様本位のケア」については言わずとも平常より職員が一番に大事にしている事で常日頃より意識をしながらケアに当たっている。	法人としての運営理念を基本に、利用者の尊厳及び利用者本位を重視してケアにあたっている。職員は、利用者との関わりの中で常に意識し、寄り添い見守りながら実践に努めている。	職員が目指す事業所のあるべき姿を具体化するためにも、事業所独自の理念が必要ではないだろうか。職員の想いとして形にしていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の例えば郵便局・銀行・スーパー・コンビニなど利用をしている。又 燃えるごみの一部や空き缶 燃えないごみなどは地域の方々と同じ場所に同じ曜日に出している。	利用者が必要とする買物や要望に応じて、近隣の社会資源を活用している。自治会に加入しており、地域の行事案内等の情報を得ているが、具体的な地域とのふれあいの機会はまだない。運営推進会議を通じて情報収集を図り、行事等への参加を検討していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して活動報告や事業所内の状況をお伝えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	時には家族様より苦言を頂戴することもある。必ず意見を尊重しご意見に応えられるようにしている。	これまでは書面による活動報告が主であったが、今年からは従来の対面による開催が可能で、家族の参加も積極的に働きかけていく方針である。地域代表者とはこまめに情報交換していきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	神戸市の社会福祉協議会へ協力を求め失聴の方へのボランティア様を受け入れることが出来た。	制度に関する事など、必要に応じて問合せしたり、相談している。継続して協力関係を築くよう努めている。	
		代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	リモート及び事例検討をもとにグループワークを行い、レポートを作成することで職員の意識向上を図っている。原則、身体拘束は行わない方針とし、カンファレンスの中で支援内容を確認している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修などを通じ職員は互いに声を掛け合いながら支援にあたっている。言葉使いにも法人から厳しく指導を受けており防止には努めている。	身体拘束同様、定期的に研修を実施している。法人理念にも掲げており、利用者の尊厳を重視するためにも言葉かけには注意している。職員のメンタル面については、フロアのリーダーが中心に職員とコミュニケーションを図り、管理者自身も積極的に話をしている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	成年後見制度を利用されている方もおられ自然にその内容に触れることが出来ている。	実際に制度を活用している利用者があり、身近な事例としておおまかな理解はしている。パンフレット等の資料の準備は十分ではない。	早速、資料を取り寄せいつでも確認できるようにしていただきたい。研修内容にも取入れてはどうだろうか。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間を設け家族様の疑問には丁寧に答えられるようにしている。	事業所として定めている重度化指針を文書にて説明し、納得してもらっている。その他医療体制、費用についても丁寧に話をしている。契約後も疑問等がある場合は、その都度説明している。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置を行っている。合わせて体調の事や様子などこまめに連絡をしており家族様の不安や意見をくみ取れるようにしている。	コロナ禍により面会ができない期間があり、毎月の報告だけでなく、体調の変化や様子については、その都度電話等で伝えるようにしている。運営推進会議の中で出た意見についても説明し、参考にしている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りには必ず参加するようにしている。又、フロア会議にも参加し問題点や疑問があれば法人に伝え解決に向けて努めて頂いている。	フロア会議等を中心に、職員からの意見や提案を聞いている。管理者に就任してまだ日も浅いため、普段の利用者の状態を確認しつつ、職員にも積極的に声をかけるよう意識している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の自己評価を提出する機会を設けている。直接、職員の報酬に反映されている。勤務状態などに問題があれば法人から個人面談などもされる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には複数の事業所があり職員の知識・経験・力量などその他様々な面を考慮し就労する事業所やフロアを定め必要な研修を受講して貰っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には複数の同業者が存在しており交流を深めそれぞれのフロアの問題点や評価点を話す場がある。			

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には必ず・既往歴・生活歴・家族構成など詳細にお聞きし必要な支援が何なのかにつなげている。			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談時の際には家族様の不安や心配事に耳を傾け安心して頂けるように努めている。			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な場面を想定し必要な支援の質や量に速やかに対応することが出来るようにイメージしておく。			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢者の方は人生の大先輩と認識し暮らしの中での知恵を教えていただく。			
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の願いや希望を第一としながらも家族様の要望には時には言葉を選びながら本人に伝達したりして本人と家族様間での関係を良好に継続することに配慮しています。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか外出への支援が出来ていないのが現状ですが回想などで話をゆっくりとしながら支援に繋げています。	これまで、家族等とのふれあいの機会が少ない状況であったが、徐々に機会を設けている。利用者の生活歴や興味のある話題などを汲み取りながら想いを聴くように努めている。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ話を繰り返す方や、注意をしてしまう方もおられますが常に職員が介入しトラブルを避け良い関係を築くことが出来るよう努めています。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いてきた関係を更に深められることが出来る機会と考え訪ねて来られても連絡があっても快く対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議開催時には必ず本人の意向や希望、生活の過ごし方を伺うようにしています。	各階のリーダーが3か月ごとのモニタリングを実施している。ケアノートへの記入を集約するとともに、担当者会議の前には利用者本人・家族への聞き取りを行って要望などを取りまとめている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談の際に伺うようにしています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事・したいことを見極め本人に安心して頂けるようなサービスの提供に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の意見を取り入れ本人様の現状を理解し本人様にとって安心して過ごすことが出来る環境を目指している。	ケアノート・連絡帳での情報共有を行っている。意思疎通の可能な利用者とは都度の会話になかで意向を汲み取るよう努力し、希望に寄り添った計画作成を心がけている。状態変化のある時には即時変更を実施している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中での出来事や発言などは記録に記載するように指導している。日常ではない気づいたことや注意してほしいことは申し送りを活用している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、訪問看護などは勿論ですが管理栄養士からの助言や指導など多種にわたって専門的分野のアドバイスを頂いています。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後、取り組まなければいけないです。			
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診は定期的にてきている。異変などの急な状況にも対応して下さる。	複数の往診医が配置されている。状態変化時には、スピーディーに対応できている。新たに皮膚科の往診も可能になっている。管理栄養士による栄養評価も毎月、実施されている。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションから週に1回の来訪がありその都度、アドバイスを頂いたり処置などをして頂いている。			
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはかかりつけ医からの情報提供書をお渡ししている。MSWiに連絡(電話・FAX)などを行いなるべく早い退院を希望したり 退院後の生活についての相談を行っている。	入退院事例は頻度としては少ないが、入退院時には病院の医療連携室との連絡を頻繁にとよう心掛けている。利用者の身体状況を把握し早期退院に繋がるようにしている。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に同意書にて確認しているが寝たきりになった場合などその場面に沿って柔軟に説明し同意書を更新している。	重度化・看取りに関する指針がある。契約時には十分に時間をかけて説明し、同意を得たうえで締結している。状態変化のあった場合には都度、相談し変更ができることを伝えている。ターミナルケア研修も法人研修として実施されている。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応についてはしっかりと出来ている。急変時についてはその判断が難しくマニュアルに沿った行動をしている。			
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制においてはできているとは言いがたいです。	事業所内避難訓練は年2回実施している。法令に準じた設備機器点検は行っている。自治会等の協力体制については避難訓練への協力を依頼する方向である。	避難訓練計画の際に、自治会を通じて近隣住民への広報などを依頼をされてはどうでしょう。	

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけにおいては職員が互いに意識をしておりしっかりとした接遇ができています。		日々の言葉かけに職員各々が留意している。接遇面では注意が必要な時は管理者が直接注意できる関係性がある。法人による人権擁護に関連する研修が実施されている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるように職員は選択肢を持ったりしながら希望に沿えるように働きかけています。			
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の側に常に立ち、寄り添いペースを合わせて丁寧な支援ができています。			
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髪を整え衣服をきちんと合わせ身だしなみはできています。			
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けをお願いしたり、手作りのお菓子を作って頂いたりしながら楽しみの時間が持てるようにしています。		米飯の炊飯は各階で、米飯以外は外部業者からの提供である。家事が可能な利用者も少ないが出来るところは参加できるようにしている。ミキサー食・ソフト食の対応もあり身体状況に応じた食事を提供できている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量の記録を行っており職員間で共有しています。一人一人に合わせ食事の形態を変更しています。			
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診もあります。口腔ケアは朝・就寝前の1日2回行っています。			

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意を重視し、出来るだけトイレで排泄をして頂けるよう職員は支援しています。	24時間の排泄表の作成により排泄間隔などが把握しやすくなった。個室トイレの利用者は概ね失敗されることもなく推移している。利用者の様子を観察することで、さりげない声掛けと誘導支援が行えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をしたり起床時にお水を飲んで頂いたりとしています。お一人お一人の排便状況を把握し看護師に相談することもあります。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴がお好きでない方もおられますが無理強いことなく声掛けを行っています。	週に2回の入浴を行っている。利用者の意に添わず入浴ができない場合などには柔軟に対応し、清拭なども実施できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも午睡に限らず居室内で自由に休んで頂いています。夜間は静かに入眠できるように環境の整備にも取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に関しては薬剤師の方が丁寧に教えてくれます。電話やメールで問い合わせすることもあります。服薬では内服の確認をはじめ飲み忘れ等がないようにダブルチェックで対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の情報を元に好きなことは職員が把握し嗜好品や趣味など好きな事や好きなものは家族様の協力を得ながら支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今は家族様の協力が得られる方だけが外出出来ているのが現状です。今後の大きな課題となります。	人員確保が十分では無いなかで、マンツーマンでの短時間の近隣外出支援はなんとか行っている現状である。コロナ禍以前に実施していたお花見なども復活する予定・計画はある。	1階のデイサービス閉鎖後のスペース活用により、外部の人に来てもらう交流を視野に入れてはどうか。

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は利用者の方が直接手にする事はないですが、立替として好きな物や必要なものを購入しています。			
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昔の友人や家族様からの葉書きや手紙は時々届きます。家族様と電話で話す方もおられ適切にできていると思います。			
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレなどはきれいにされています。時期に応じての貼り絵や制作された物を飾り季節感を出しています。	共用空間はやや手狭に感じられたが動線確保もされており、各々の居場所が確立している。要所要所にはソファも配置されている。ソフトカラーの大きな絵画も飾られており空間演出に一役買っている。		
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにおいては歌を歌ったり、新聞を観たり動画を観たり思い思いのことをされて過ごされています。			
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はその人らしく観葉植物を置いたり本屋仏壇を置いたりご自分の生活に合ったようにされています。	ゆったりした居室内には利用者それぞれの私物が飾られている。愛着のあるぬいぐるみや人形もあり、大き目の赤ちゃん人形がベッドに寝かされていたりと個性が発揮されている。季節感のある作品も飾られていた。		
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場にはわかるよう明記している。居室には各々の名前を明記したり飾ったりして本人様がわかりやすいような工夫をしている			

(様式2)
目標達成計画

事業所名:グループホーム愛上沢

作成日: 令和 6年 3月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	①	「こんなグループホームにしたい」という具体的な目標が定まっていない	事業所独自の理念を職員全体で話し合い考えて掲げる	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア会議を利用し職員一人一人の思いをアンケート式で出してもらう ・管理者により施設目標の設定を行う 	2か月
2	⑦	「権利擁護」についての理解が乏しいのではないかとこの点	<ul style="list-style-type: none"> ・本部の協力をもらいわかりやすい研修内容を開催する ・定期的な勉強会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市社会福祉協議会が掲載しているリーフレットを事業所玄関前に設置した ・本部とも連携、協力を依頼し研修の開催予定 	6か月
3	⑫	日常的な外出が難しい状況の中 外部との交流が遮断されている	<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援を行事計画の中に入れ出来る限り外に出てみる ・外部の人に来てもらえる要に働きかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援計画を作成し家族様の協力を得ながら出来る限り遂行していく 	8か月
4					月
5					月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	<input checked="" type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した(3月27日開催し報告済み)
		<input type="radio"/> ⑤その他()
2	自己評価の実施	<input checked="" type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
		<input checked="" type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/> ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input checked="" type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/> ⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/> ⑤その他()